

IG科研&グローバル関係学科研主催  
— Online Book Talk 3 —

# 巣ごもり 読書会 Feminism 『フェミニズムとイスラーム』

今回は「フェミニズム」について考えるシリーズ第3弾、とりあえずの最終回です。

学術誌上の特集「フェミニズムとイスラーム——批評の境界を探る “Roundtable: Feminism and Islam: Exploring the Boundaries of Critique”」（『宗教とフェミニスト学 Journal of Feminist Studies in Religion』32(2), Fall 2016, pp. 111-151）を題材に、近年米国で活躍するムスリム女性研究者たちのクルアーン解釈をめぐる論争について、二人の語り手が思うところを自由に話し合います。ふるってご参加ください。

語り手 **後藤 絵美**（東京大学）

**高橋 圭**（東洋大学）

後藤 絵美（ごとう えみ）

大学でイスラームとジェンダーに関する講義を受け持つ中で、イスラーム圏の人々の経験や思想を含めた「フェミニズム」って何だろうと考えるようになる。主著『神のためにまとうヴェール——現代エジプトの女性とイスラーム』（中央公論新社、2014）。東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク特任准教授。

高橋 圭（たかはし けい）

スーフィズム（イスラーム神秘主義）に関心を持ち、近年はアメリカをフィールドにして研究を行っている。調査を通じて、現代イスラームの理解にはジェンダーの視点が不可欠との認識を深める。論文「伝統と現実の狭間で——現代アメリカのスナ派新伝統主義とジェンダー言説」（『ジェンダー研究』21号、2019年）など。東洋大学文学部史学科助教。

※開催日が変更になりました

2020. **10.31** Sat 20:00-21:00



◆主催

科研費基盤研究(A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究（代表：長沢栄治）  
新学術領域研究 グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立  
B01班規範とアイデンティティ（代表：酒井啓子）

◆共催

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

◆問い合わせ先

イスラーム・ジェンダー学科研事務局